広報よりい
2009 5 平成21年
平成21年5月1日発行　発行／寄居町　編集／総務課　〒369-1292　埼玉県大里郡寄居町大字寄居1180-1　TEL048-581-2121　FAX048-581-5100

わたしの好きな よりい

No.157

＜変わらぬ風景～荒川・八高線鉄橋～＞

吉田光枝さん
（折原上郷）

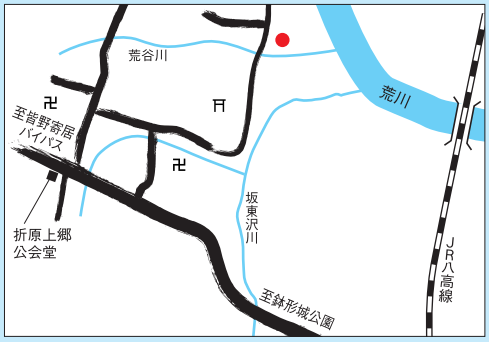
埼玉県、山梨県、長野県の県境に位置する甲武信ヶ岳に源を発する荒川は、険しい山々に深い谷を刻み、多くの沢を合わせて流れ下っています。

荒川は、寄居町の中央を流れ、桜や魚釣り、花火、紅葉など、四季折々の表情で私たちに安らぎを与えてくれます。素晴らしい風景がたくさんありますが、私のおすすめの場所を皆さんにご紹介します。折原上郷側から荒川を東に眺めた風景です。

この付近は毎年鮎釣りのシーズンになると、多くの釣人でにぎわい、朝夕は、年間を通して、河原を散歩する人をよく見かけます。

また、“ゴトッ、ゴトッ”と音を立てて、鉄橋を渡る八高線の姿は、昔から変わらず、なにか懐かしさを感じさせてくれます。

皆さんも、機会を見つけてお出かけください。きっとホッとした気分になりますよ。



わが町の達人 No.26

書道の達人

加藤祐司【東陽】さん（常木）

このコーナーは、「寄居生活学の達人」として町に登録をいただいている町民講師の方々を中心に、そのうんちくや技術、体験などを町民の皆さんに紹介するコーナーです。

明日香ちゃんは筆を握った時、一点一画をどこに、どのように、どう書こうかと、一瞬、緊張感が体を駆け巡ります。そして、筆を紙に降ろした途端に「もうたいへん」と、ひと筆ひと筆の悪戦苦闘が始まりました。また、「ていねいに」「じょうずになるまで」のことばには、明日香ちゃんの願いとねらいが込められています。ここには自己変容にせまり、新しい自分づくりの糸口が見えます。さらに「なんかいも」のつぶやきの後には、書き終えた後の達成感・成就感を味わうとともに、“わたしもやればできる”“わたしってすごい”といった自尊感情・自愛感が芽生えてきます。習字をとおして、明日香ちゃんが、自分を拓き、次の新たな課題に自信をもって、向う姿が想像できましょう。

ここで、明日香ちゃんの詩をもとに「書くこと」について、少し考えてみたいと思います。

まず、書くことは自分と向き合い一点一画をどのように書き進めるのか、それまでの知識を修正し、補充し、反芻するなどいろいろと思考し判断して、一つの文字を組み立てていきます。それはまさに自分自身との戦い、葛藤であり、「自分づくり」「一人称づくり」と言えます。また、書くことのもう一方には、そこにいない人に向って書くという行為でもあり、目の前にいない人〈書く相手〉を思い浮かべながら、自分にとってなくてはならぬ存在に変えていく行為であります。「相手づくり」「二人称づくり」の営みといってもよいでしょう。

「書くこと」は、「自分づくり」そして「相手づくり」というように、人間と人間との関係の中で互いの立場や考えを尊重し合う「人間関係力」や、「人間形成力」に資するものなのです。

「書くこと」と、今日の情報化社会で、キーボードをポンと叩けば、印字された文字（結果）がすぐ出てくるパソコン等との大きな違いは、この「書く過程」の有無にあると言えましょう。

いつまでも、明日香ちゃんの「習字」のように、筆のつぶやきを大切にしたいものです。

習字

金田　明日香

筆は黒い道路を作る
長四角の地ぎゅうに
たまに太く　たまに細く
大きな道路をしんちょうに
まがったり　いき止まったり
ひねって　はねて　もうたいへん
時間をかけて　ていねいに
じょうずになるまで
なんかいも

（茨城県土浦市・右籾小4年）

2000年4月4日付、読売新聞「こどもの詩」に掲載されたものです。

4月1日の町人口　37,214人　男 18,544人　女 18,670人　世帯数 14,022世帯〔3月中の動き〕出生 21人　死亡 29人　転入 166人　転出 214人